

Asian Diversity No.19 by ASNET 復興支援ツーリズム

東日本大震災からの復興に私たちはどう関わるべきなのだろうか。復興支援ツーリズムは、多くの人が参加できる支援の方法として考えられています。東洋文化研究所・ASNET共催セミナーでは、石巻専修大学の森信治郎氏をお招きし、その可能性についてお話いただきました。

大森先生は、東日本大震災の大津波から大きな被害を受けた宮城県石巻市で、専門分野のツーリズムの立場から復興に関わってこられました。被災直後の緊張感が薄れるにつれ、被災者の要求は多様化し、来訪者（ボランティア）の意識も多様化していきます。より多くのボランティアが被災地に訪れるようにするために、観光とボランティア活動を組み合わせた「ボランティア・ツーリズム」は有効な方法だと考えられています。また、観光客を呼び込むことは地域経済の活性化にとっても重要な意味を持ってきます。雇用を生み出し、産業を復興するためには観光客が現地でお金を使うことは重要なことです。ただし、震災の記憶を忘れないために、訪問者が弔意を表す場を整備するような配慮も必要でしょう。また防災研修のような形で、震災の教訓を生かす仕組みも重要でしょう。

観光客として現地を訪れることは、現地の事情を知るということにつながります。新聞やテレビでは報道されない事実も、現地に行くことによって知ることができ、それは復興を正しい形（正義に適った形）で導くこととなります。この点は、第41回共催セミナー「アマルティア・センの『正義のアイデア』」（2011年12月1日）で取り上げたことに関わってきます。特に福島で現実起こっている状況は注目していく必要があります。

原発に依存する開発の形が望ましいのかという点に関しては、第43・44回の共催セミナーで「ドキュメンタリー映画を見る」として「懐かしい未来：ラダックから学ぶ」（2012年1月26日）と「それでも種をまく」（2012年2月9日）として取り上げました。これらの共催セミナーの内容についてはASNETのホームページで「ASNETの活動報告」として見ることができます。ぜひご覧ください。

共催セミナーでは、今後も震災復興に関わるテーマを取り上げていきたいと思えます。 文：池本幸生



大森信治郎氏(石巻専修大学経営学部)による講演

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（ASNET機構）は、アジアのことを広く、深く知りたい学生の皆さんに研究科等横断型「日本・アジア学」教育プログラムも実施しています。詳しくは下記のURL：

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

～救援・復興支援室より～

No.12

■救援・復興支援室の活動（4月～7月）

- 4月27日・・・登録プロジェクトに対する支援プロジェクト決定
- 4月28日～5月5日・・・ゴールデンウィークボランティア隊活動
活動場所：岩手県大槌町及び陸前高田市
第1班：4月28日～5月1日
第2班：5月2日～5月5日
- 5月1日・・・波江町と放射性物質による汚染の測定及び除染の連携・協力に関する協定締結
- 5月26日～7月8日・・・学習支援ボランティアの活動予定
活動場所：岩手県陸前高田市
活動期間：5月26・27日／6月9・10日
6月23・24日／7月7・8日

- プロジェクト登録研究 85件（2012年3月21日現在）
⇒「再生のアカデミズム《実践編》」連載中。P24参照
- 救援・復興支援室の活動の詳細はウェブサイトをご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/index_j.html
- 救援・復興支援室
Email: kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
内線: 21750

第3話 分室

救援・復興支援室の遠野分室から、被災地の復興の様子や分室の活動を報告していきます。

遠野ものがたり

「許可証」の更新を済ませてきました！
遠野市で活動していて、何処でも必ず目にする存在・「カッパ」。カッパは日本全国から情報が寄せられるUMA（未確認生物）ですが、その中でも有名なもののひとつが、ここ遠野市の「カッパ淵」に現れるといわれています。

遠野市のキャラクターにもなっており、生け捕りと帰属が条件で地元遠野テレビが「1,000万円」の謝礼金を懸けており、カッパ淵の様子はライブでHPから見る事ができます。

但し、運よくカッパに遭遇しても、これを持っていないと・「カッパ捕獲許可証」。

遠野市観光協会が発行していて、顔写真入りや名刺にしている遠野市民もいます。裏面には「カッパ捕獲7カ条」が記載されており、遠野市のカッパに対する愛情が伝わってくる許可証です。ちなみに、週末カッパ淵で許可証を提示すると、「キュウリ付きの釣竿」を無償で貸してくれます。

許可期限が過ぎている方は、早目の更新をお勧めします。

どんどはれ・・・

文：赤崎公一



カッパ捕獲許可証



カッパ淵の様子



遠野市キャラクター「カリンちゃん」

執筆者紹介： 救援・復興支援室遠野分室勤務（総合企画部企画課係長）赤崎公一氏。東日本大震災にて実家（岩手県大槌町）が津波で全壊し、家屋・家財すべて流失。昨年7月より、妻と子（当時1歳）とマンションのローンを東京に残し、岩手県遠野市に移住。現在は、被災した母（65歳）と高校卒業以来の同居生活中。
連絡先: tohno-kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp